

16日 木曜

I サムエル



14:1 そのようなある日、サウルの息子ヨナタンは、道具持ちの若者に言った。「さあ、この向こう側のペリシテ人の先陣の方へ行こう。」しかし、ヨナタンは父にそのことを知らせなかった。

14:2 サウルはギブアの外れで、ミグロンにある、ざくろの木の下に座っていた。彼とともにいた兵は約六百人であった。

14:3 アヒヤは、エポデを身に着けていた。アヒヤはアヒトブの子で、アヒトブはイ・カボデの兄弟、イ・カボデはピネハスの子、ピネハスは、シロで【主】の祭司であったエリの子である。兵たちは、ヨナタンが出て行ったことを知らなかった。

14:4 ヨナタンがペリシテ人の先陣の側に越えて行こうとしていた山峡には、手前側にも、向こう側にも、切り立った岩があって、一方の側の名はボツェツ、もう一方の側の名はセンネといった。

14:5 一方の岩は北側、ミクマスの側にあり、もう一方の岩は南側、ゲバの側にそそり立っていた。

14:6 ヨナタンは道具持ちの若者に言った。「さあ、この無割礼の者どもの先陣のところへ渡って行こう。おそらく、【主】がわれわれに味方してくださるだろう。多くの人によっても、少しの人によっても、【主】がお救いになるのを妨げるものは何もない。」

14:7 道具持ちは言った。「何でも、お心のままになさってください。さあ、お進みください。私も一緒に参ります。お心のままに。」

14:8 ヨナタンは言った。「さあ、あの者どものところに渡って行って、われわれの姿を現

すのだ。

14:9 もし彼らが『おれたちがおまえらのところに行くまで、じっとしている』と言ったら、その場に立ちとどまり、彼らのところによって行かないでいよう。

14:10 しかし、もし彼らが『おれたちのところによって来い』と言ったら、上って行こう。【主】が彼らを、われわれの手に渡されたのだから。これが、われわれへのしるしだ。」

14:11 二人はペリシテ人の先陣に身を現した。するとペリシテ人が言った。「おい、ヘブル人が、隠れていた穴から出て来るぞ。」

14:12 先陣の者たちは、ヨナタンと道具持ちに呼びかけて言った。「おれたちのところによって来い。思い知らせてやる。」ヨナタンは道具持ちに言った。「私について上って来なさい。【主】がイスラエルの手に彼らを渡されたのだ。」

14:13 ヨナタンは手足を使ってよじ登り、道具持ちも後に続いた。ペリシテ人はヨナタンの前に倒れ、道具持ちがうしろで彼らを打ち殺した。

14:14 ヨナタンと道具持ちが最初に討ち取ったのは約二十人で、一ツエメドのおおよそ半分の広さの場所で行われた。

14:15 そして陣営にも野にも、すべての兵のうちに恐れが起こった。先陣の者、略奪隊さえ恐れおののいた。地は震え、非常な恐れとなった。

14:16 ベニヤミンのギブアでサウルのために見張りをしていた者たちを見ると、大軍は震えおののいて右往左往していた。

14:17 サウルは彼とともにいる兵に言った。「だれがわれわれのところから出て行った

かを、点呼して調べなさい。」彼らが点呼すると、ヨナタンと道具持ちがいなかった。

14:18 サウルはアヒヤに言った。「神の箱を持って来なさい。」神の箱は、そのころ、イスラエル人の間にあったからである。

神様はサウルが心配しなければならないような、

限定された弱い方ではなく、人数にも装備にも限定されずに勝利を収める方です。そして義なる戦いには、信仰の人を用いられます。

ヨナタンこそはまさに信仰の人で、主のために戦い(6)、勝利を信じ(6)、希望があり(7)、主の御心を求めて従い(10)、信仰の勇気がありました。

私たち自身はどうでしょうか。ヨナタンのように主に用いてもらえるような者になりましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

